

※ 紹介 ※

武井正臣・熊谷開作・神谷力・山中永之佑共著  
「日本近代法と「村」の解体」一九六五・二刊

本書は明治地方制度の実態をつかむために、戸長役場時代の記録、三新法期の寄合記録、区会の記録、入会関係の資料などを踏査蒐集しての研究である。大小区制期・三新法期・戸長管区制期を通じて各地で展開された地方制度が、中央政府の意志に対していかに順応し、いかに抵抗したかを比較考察しようとしている。序章統一的な地方制度へのみち（熊谷）、第一章「村」の組織―維新の「村」から町村制の村へ―（大阪府―山中、愛知県―神谷）、第二章「村」の財産（武井）、第三章町村制と家の運命（熊谷）、第四章総括（熊谷）という構成をなし、村の組織の事例として大阪府と愛知県の例を、「村の財産」の事例として阿蘇の例をあげている。

左の著書を村研会員に割引して頒布致しますので多数お申し込み下さい。

山岡栄市著「漁村社会学の研究」大明堂刊、定価一三〇〇円、村研会員の旨申添え送料共一一五〇円送付のこと。振替東京一五二七〇

武井正臣、神谷力ほか著「日本近代法と村の解体」法律文化社刊、定価一一〇〇円。村研会員の旨付記して、直接申込二割引（八八〇円）送料申込者負担、振替京都一〇六一七（京都市北区紫野宮東町九番地法律文化社）